

がある。その命は神様の愛じようによつてさずかったものだ。
大昔からわたしたちの祖先はそんな神様に感しやして、おいのりをしてきたんだ。

神社には神様がおまつりされている。きみたちが住んでいる近くにも神社があると思う。昔からその土地の守り神としてまわりのみんなが大切にしてきた神様で、そこには天皇陛下のご祖先や農業の神様、海や山など自然の神様、れきし上のえらい人などが神様としておまつりされているんだ。

神様のおめぐみ

わたしたちは神様の色々なお力にさせられて生きている。きみの頭の上からポカポカとやさしくてらす太陽、夜空に光りかがやく星や月、ほつぺたにあたる雨や、かみの毛をゆらす風、その全部に神様のお力がはたらいている。

それは人や自然にとって必要なもの。全ての生き物を育て、農作物や植物を生長させる。自然が育てた植物や動物をきみたちは食べて生きている。植物のおかげできれいな空気をいっぱいすいこむこともできる。

神様のおめぐみはきみたちの近くにもたくさんある。見つけてごらん。



お米

あわび(貝)

たい(魚)

野菜やくだもの

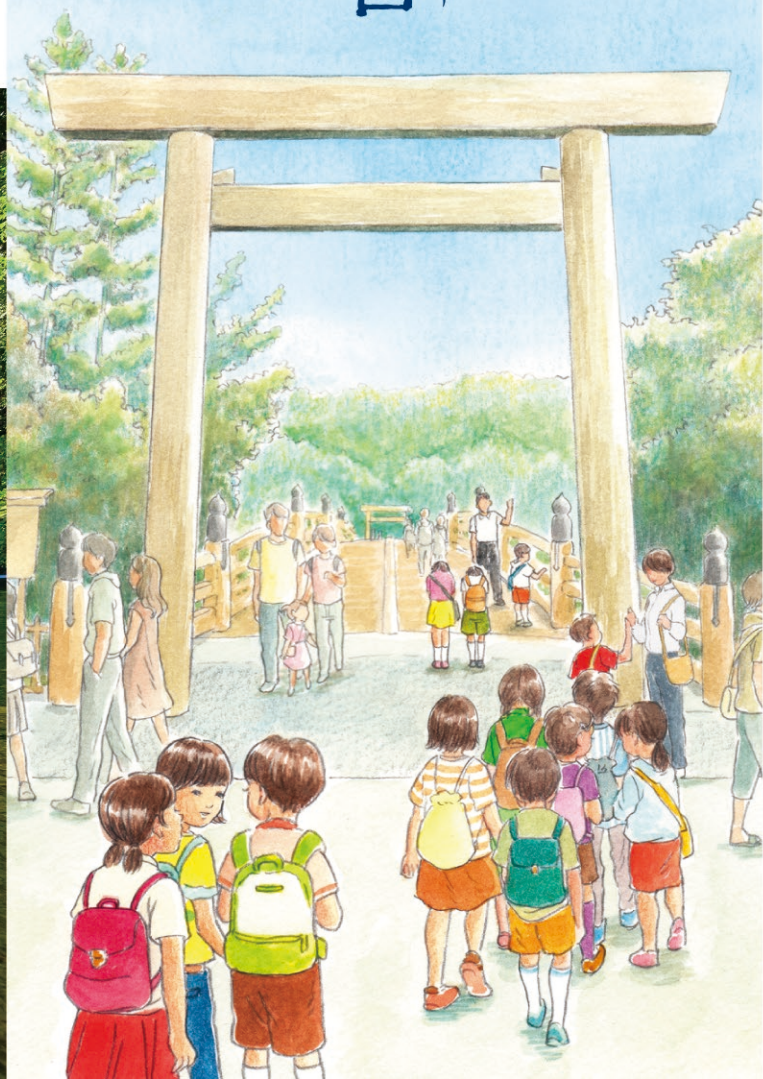
神様へ色々なおそなえもの
全て神様のおめぐみによって自然からいただいたものです

神宮司庁

〒516-0023 三重県伊勢市宇治館町1
電話 0596-24-1111(代)
<https://www.isejingu.or.jp/>



伊勢神宮



きみが食べているもの、着ているものの、住んでいるところ、そこにどんなにたくさんの人たちが関わっているか考えたことがあるかい？ そのような人たちのおかげできみたちは毎日安心してくらすことが出来るんだ。そして、目には見えないけれど、きみたちをささえてくれているもつと大切なものがある。人の愛じようや信じられない関係だ。それとにているもので、少し考えないと分からないものが神様のおめぐみ。それは神様からわたしたち全ての生き物への愛じようだよ。きみたちの中には神様からいただいた命



いすずがわ
内宮を流れる五十鈴川
太陽の光で水がキラキラしています



皇大神宮(内宮) 天照大御神をおまつりしています



豊受大神宮(外宮) 豊受大御神をおまつりしています

伊勢神宮の歴史

— 約二〇〇〇年の歴史 —

天照大御神は、伊勢におまつりされる前天皇陛下が皇居(天皇陛下のおすまい)の中でおまつりされていた。その後、もっと良いところにおまつりすることになり、倭姫命という天皇陛下のおひめ様が色々な場所をさがされた。

「伊勢はおだやかで自然もゆたかな良いところ、ここにおまつりしてほしい」

倭姫命が伊勢に来られたとき、天照大御神からおつげがあり、たいへん伊勢のことを気に入られたので今の内宮の場所におまつりする事になったんだ。今からおよそ二〇〇年前のことだ。

神様に感じやの気持ちを伝え、農作物がたくさんとれて天皇陛下を中心に国が平和であることをおいのりするんだ。



神嘗祭
お祭りで神様におそなえをしているところ

【神宮式年遷宮】

伊勢神宮では二十年に一度、神宮式年遷宮という、神様のお引っ越しのお祭りがある。伊勢神宮ではお宮のとなりに広い空き地があるから見てごらん。ここに新しい神社をたてて神様にお引っ越しをしてもらうんだ。このお祭りでは神様のためにたくさんのお宝物も作る。日本で最も大きなお祭りだ。どうしてこんなことをするんだろう？

今からおよそ一三〇〇年前、その時の天皇陛下(持統天皇)は神様のために新しい神社と新しい宝物を用意して、

伊勢神宮では何をしているの？

それから約五〇〇年後、天照大御神から、近くにお食事のお世話をしてくれる神様をおまつりしてほしいというおつげがあり、今の京都の北あたり(天橋立の近く)におまつりされていた豊受大御神を伊勢にお呼びして、外宮におまつりした。今からおよそ一五〇〇年前のことだ。それ以来、わたしたちのご先祖は伊勢神宮を日本の中心の神社としてずっと大切にしてきたんだよ。

伊勢神宮は何をするところだろう？一年間に伊勢神宮をお参りする人(参拝者)の数は八〇〇万人以上、とてもたくさんの人だ

伊勢神宮では一年に一五〇〇回もお祭りが行われているけど、その中でも一番大切なお祭りはその年にとれたお米を最初に神様におそなえして感じやを伝える十月の神嘗祭というお祭りだ。

神様のお食事

外宮では豊受大御神をおまつりしてからおよそ一五〇〇年間ずっと、天照大御神や豊受大御神、別宮の神様にお食事をおそなえするお祭りが毎日行われている。そのようなお祭りを通して、神様は食べ物の大切さを教えてくださっているのだと思う。

きみたちが毎日食べているものはどこからきたものだろう？ テーブルにならんだ

「ありがとうございます。これからもずっと、みんながゆたかにくらせますように」

とせいいっぱい感じやの気持ちを伝えようとされたのだと思う。

それからずっと、わたしたちのご先祖は二〇年に一度、式年遷宮のお祭りをして、みんながいつしよに「ありがとうございます。このお祭りはそんな大切なお祭りだと覚えておいてほしい。」

伊勢神宮の神様

では、伊勢神宮におまつりされている神様はどんな神様だろう。伊勢神宮は一つの神社だけではなくて、皇大神宮(内宮)と豊受大神宮(外宮)二つの神社と、そのほかにも別宮などたくさんのお宮がある。全部合わせるとなんと二五も神社があるんだ。

内宮におまつりされている神様は天照大御神。天皇陛下のご祖先であり、太陽のように全てをやさしく包み、おめぐみをあたえてくださる一番とうとい神様だ。そして、内宮から少しはなれたところにある外宮におまつりされている神様は豊受大御神。毎日の食事やみんなの生活を守ってくださる大切な神様だよ。

ね。参拝者にお守りやおふだをわたしたり、おはらいをすることも神社の大切なおつとめだけど、一番大切なおつとめはお祭りをすること。ではお祭りって何だろう？

わたしたちは種まきをしたり、お米のなえを植えたりして育てる事は出来るけど、どんな人間でも最初から種を作ることは出来ないし、田んぼのいねを生長させることも出来ない。人がしているのは神様のお力でいねや野菜が生長するのをお手伝いすることだ。

お祭りはそんな神様のお力、おめぐみに「ありがとうございます」と感じやを伝えることなんだよ。

伊勢神宮のお祭りで中心となられるのは、天皇陛下。天皇陛下はいつも私たちみんなの幸せをおいのりされているんだ。お祭りでは



伊勢神宮の田んぼ
神様のためにいっしょうけんめいお米を育てます

ごはんを思い出してごらん。お茶わんのごはんは神様のお力をいただいて農家の人たちがいっしょうけんめい育ててやっとしゅうかくすることが出来たお米だ。ごはんの前に言う「いただきます」は神様やお米を作ってくれた人、料理してくれた人みんなへのお礼であることをわすれないでほしい。



とにりに出来た新しい神社 神様にお引っ越しをしてもらいます